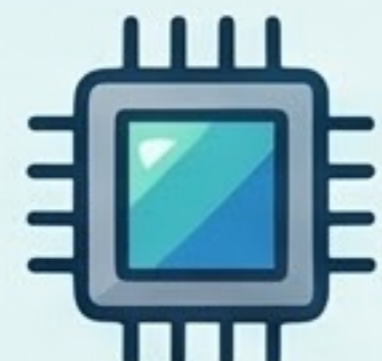


2026年4月：日本AI「飛躍説」の真実 — 到達点ではなく、歴史的転換点へ

多面的転換：官民の動きが結実

AI基本計画：国家戦略としてのAI実装を加速し、産官学連携によるエコシステム構築を目指す。

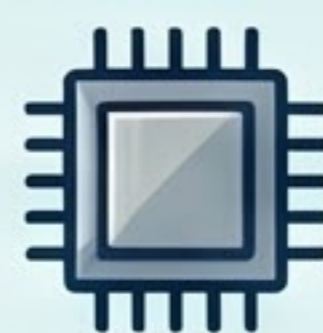


Microsoft 1.6兆円投資発表
Rapidus 6315億円追加支援
NTT AIOWN構想公表
1ヶ月の間に集中した投資と構想

戦略シフト：「使う」から「創る」へ



Foundational Model
と基礎的工種



日本のAI実力 主要国比較 (現在地)

指標	日本の現状 / 順位	比較対象・課題
AI民間投資額 (2024)	約0.93十億ドル	米国 (109.08十億ドル) との巨額差
AI研究力 (MEXT資料)	主要国中 10位付近	米中がトップを独占
GPU資源シェア	世界の約1%	計算資源の確保が急務
政府AI関連予算 (R8)	5,027億円	R7年度比2.55倍と急拡大中

歴史的転換点



冷静な視点：残された国際的ギャップ



米中との圧倒的な投資・資源格差

民間投資額：
日本は米国約1/100、
政府投資約1/30

GPU資源シェア：
世界の約1%



汎用フロンティアモデル
性能の未到達

産業実装と技術の「日本的強み」



物理AI・ロボティクス：
Sony AI「Ace」Nature誌掲載



現場密着型社会実装：
トヨタ「Potaro」27,000km達成

特定ドメイン・日本語特化での差別化



NTT「tsuzumi 2」 PFN「PLaMo」シリーズ
公共・産業の特定ニーズに応える

結論：到達点ではなく転換点



世界水準に食い込むための
「条件が揃った」段階。
2027年以降の量産・実利用が鍵。